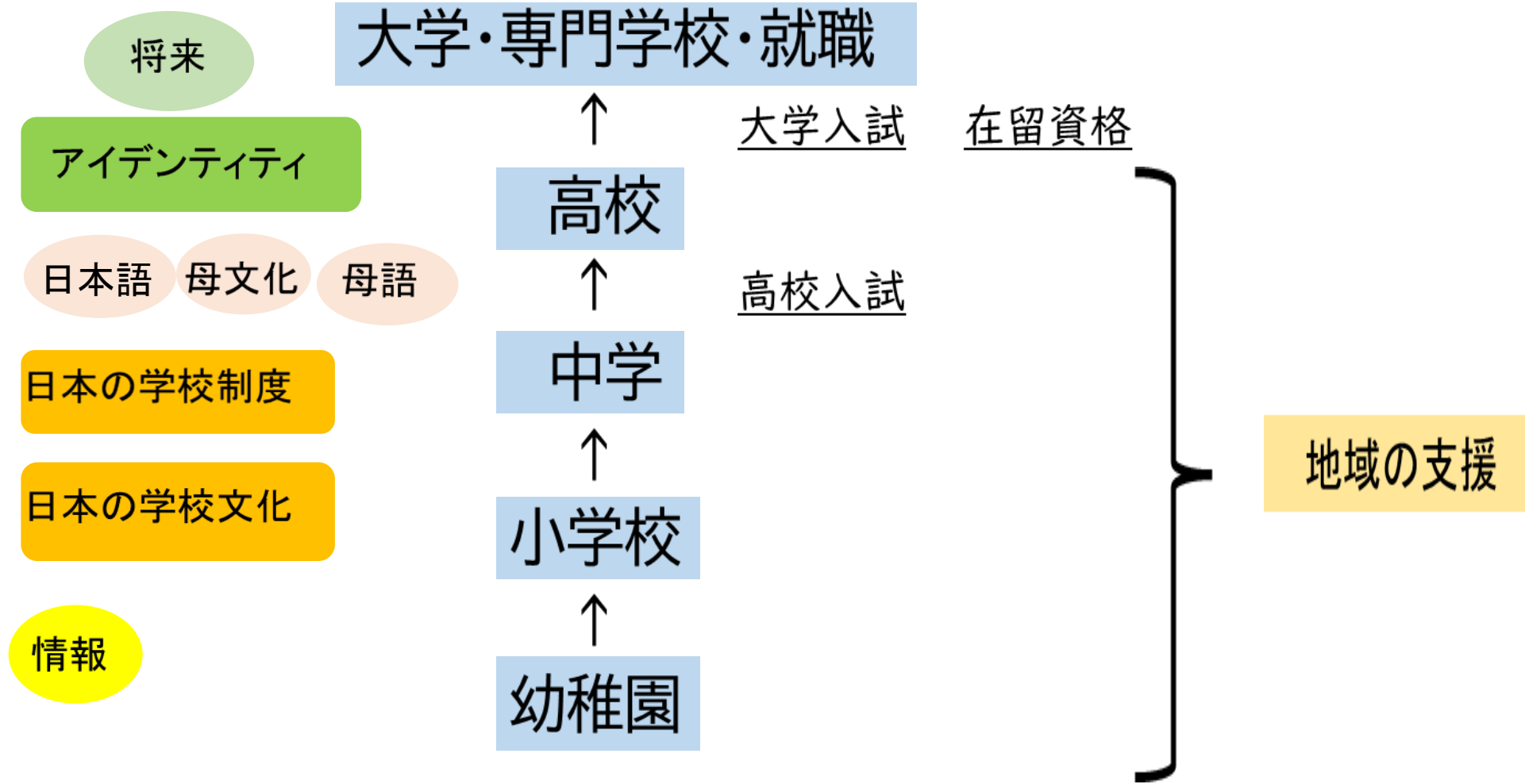


第21回 アクラスZOOM寺子屋

CLD児のライフストーリー 高校における支援体制

武 一美



将来

大学・専門学校・就職

アイデンティティ



大学入試

在留資格

高校



高校入試

日本語

母文化

母語

中学

日本の学校制度



日本の学校文化

小学校



情報

幼稚園

地域の支援



どんな道を歩いてきたのかな？



これから
どんな道を歩いていくのかな？
どんな未来があるのかな？



目の前の生徒の現時点を見て、

私たち大人が、

その生徒のこれまでとこれからを視野にいれ、

長いスパンで

彼らの言語習得について考えることをめざす。



- ・私たちが経験したことがないこと、歩いたことがない道
- ・いま目の前にいるこの生徒の過去・現在・未来
- ・知る、感じる、想像する、考える。

参考になる本:

異なる言語の間で育った子どもたちの
ライフストーリー

『私も「移動する子ども」だった』

川上郁雄(編著)

※ライフストーリー:個人の人生、生活、生き方について語られた物語

参考になる本:

『まんが クラスメイトは外国人』 多文化共生20の物語・入門編・課題編

「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会 明石書店

子どもたち(日本の子どもと外国につながる子ども)に向けた
外国につながる子どもたちの物語と解説

参考になる本:

『台湾生まれ 日本語育ち』白水社

温又柔 おん・ゆうじゅう Wen Yuju

児童生徒と環境

- ① 言語・文化・アイデンティティ
(母語・母文化・日本語)
- ② 生活(コミュニケーション・家族・アルバイト・貧困)
- ③ 学校・進路
(学校文化・異文化適応・日本語学習・教科学習・進学・就職・情報)
- ④ 社会・制度(まなざし・行政の支援・地域市民による支援・
学校制度・地域格差・在留資格)

高校時代:自身のなかで 結ばれる多様な学び

ゆっくり

校内活動

教科の授業
日本語の授業
放課後補習
部活
文化祭
先輩の話を聞く会

校外活動

交流イベントへの参加
高校進学ガイダンスのボランティア
進路相談会参加
地域の学習教室



学習する

教科・日本語・キャリアに向けた学び
読書(母語・日本語)

多様な人と出会う

他校の生徒・先輩大学生・日本人大学生・先輩社会人・母語通訳者・コーディネーター・専門学校や大学職員・大学の先生・弁護士

体験する・知る・考える

知らなかった世界・情報を知る
手伝ってくれる人がいることを知る
自分が置かれている状況を把握する
相談できる人の存在を知る・再認識する

エンパワメント empowerment

エンパワーメント＝「力」をつけること、獲得すること

(力があるにも関わらず)力を剥奪された状況にあるのだから、その力の源となる資源へのアクセス機会を得ることにより、力、とくに意志決定における自律性を獲得することが可能になる。

力を奪われている (disempowered) 状態

高校における支援体制

高校における日本語指導体制

- ・全国的に統一された日本語指導体制や仕組みはない。
- ・2023年度から高校でも「特別の教育課程」がスタート
- ・高等学校における日本語指導体制整備事業
学芸大（文科省委託事業）が高等学校における日本語指導の
「手引」・「ガイドライン」

高校における支援体制

地域間格差・高校間格差の存在

- 高校に入学するための支援
（入試、入学前のサポート、高校進学ガイダンス）
 - 高校入学後の支援
 - 支援が必要な生徒の把握
 - 高校生活や授業での支援（日本語学習・教科学習）
 - 放課後支援、面談での通訳手配
 - 卒業後の進路に向けた支援
- ※高校外:日本語教室、学習教室、NPO等による高校内での支援

日本語指導が必要な高校生

(1) 日本生まれや幼少期に来日した生徒。

家庭内で日本語以外の言語で育った生徒。

(2) 小学校高学年や中学校の時に来日した生徒。

日本語習得までの一定期間の学習の遅れがあり、それが高校まで影響している。

(3) 中学校3年生の時や中学校を卒業してから来日した生徒。

入学時「滞日年数3-6年」の1年生

- ・高校生活の中での日常的なやりとりには困らない。
- ・日本人生徒との日本語でのやりとりもできる。
- ・教科の授業についていくことが難しいことがある。
- ・出身国での教科学習経験が小学校までなので、中学校の教科を母語でも学習していない単元がある。+母国と日本の学習内容の違い。
- ・来日以降の数年は日本語ができないことから、日本の中学校に在籍していても教科学習ができなかった時期があるため、**教科の単元に空白**のある可能性がある。
- ・**母語訳や母語サポートがあっても、理解できないことがある。**

入学時「滞日年数1-2年」の1年生

- ・高校生活の中で日常的に使用することばについて知らない語彙がある。
- ・日本人生徒と日本語で日常的なやりとりをすることが難しい。
- ・漢字で書くと、意思疎通ができる。(漢字圏の生徒)
- ・教科の授業についていくことが難しい。
- ・教科の授業内容については、**母国での既習事項があり、母語訳や母語サポートがあれば理解できることがある。**

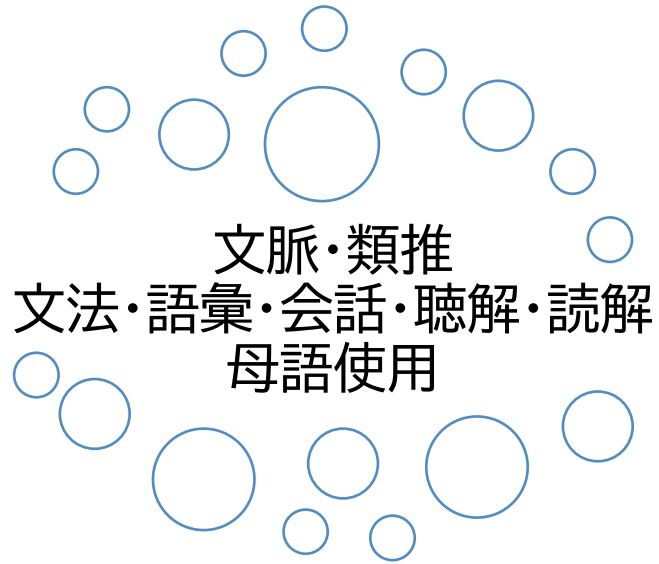
日本語指導が必要な高校生

様々な要素の組み合わせから、現在の日本語状況が構成されている。単純なテストでは見えないことが多い。

いっしょに学習を進めながら日本語の習得状況を徐々に把握する必要がある。

在日期间、日本語環境、家庭環境、漢字、日本語習得状況、

高校生の日本語習得

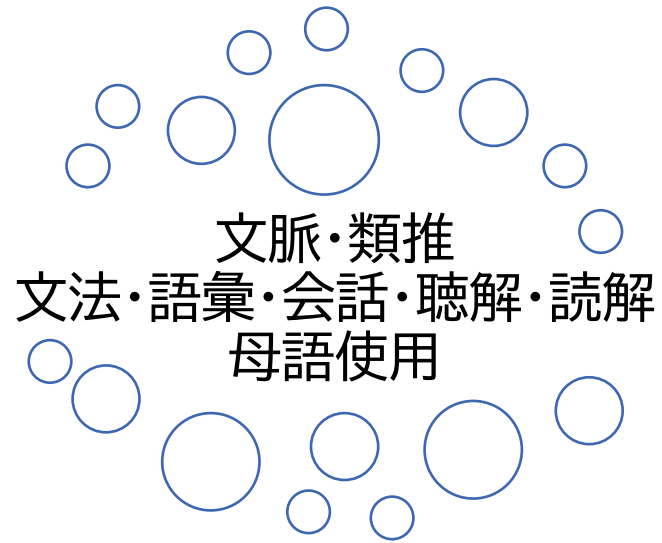


高校における言語生活
日本語学習
教科学習
学び方を学ぶ



自然習得
第二言語学習

高校生の日本語習得



高校における言語生活
日本語学習
教科学習
学び方を学ぶ



情報を得る
文章を読む
意見を言う
文章を書く

日本語(教師)と教科学習

- ・日本語学習:教科書を読むことができる、授業が理解できるために。
- ・教科学習におけるスキヤホールディング(梯子かけ)を考える。
どんな補助があれば学年相当の内容を理解できるのか?
- ・生徒と教科教員の仲介者としての日本語教師
教科担当教員に働きかける。
生徒が日本語で躓くポイントを伝える。
やさしい日本語のヒントや方法を伝える。